

現在、太陽光、風力、雪氷やバイオマスなど地域の自然や産業に根ざし、環境に優しい新エネルギーを育むことにより、人と自然が共生し、環境と調和した社会を築いていくことが必要となっています。

特に管内では、年間を通じて風況が良いため、風力発電施設の立地が進み、現在では、112基の風車が稼働し、さらに導入拡大のため、送電網整備の実証事業が平成25年度より進められています。こうした風車で発電された電力のほとんどは北海道電力を通じて一般家庭等に供給されています。

北海道遺産の宗谷丘陵に、平成17年に完成した宗谷岬ウィンドファームは、我が国最大級の規模(年間発電量は一般家庭約4万1千世帯分の消費電力に相当)であり、林立する風車57基は、宗谷丘陵の周水河地形とともに、壮大な景観を形づくっています。

各市町村における新エネルギーの導入

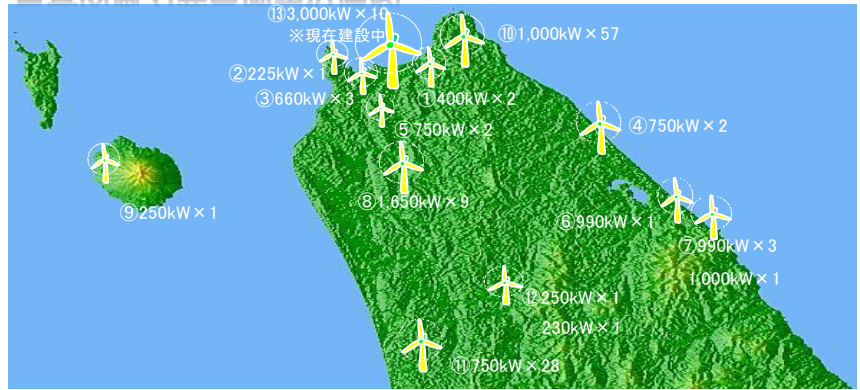
稚内市は、平成23年2月に「稚内メガソーラー発電所」を中核として、市内の風力、バイオマス、雪氷、電気自動車等の各新エネルギーを一体化し、次世代エネルギーの学習・体験ができる最先端都市として、経済産業省から「次世代エネルギーパーク」に認定されました。

また、生ごみ等を原料として発生したバイオガスを有効活用できる「生ごみ中間処理施設」が平成24年4月に供用開始されております。

利尻町、猿払村、豊富町、幌延町、中頓別町、枝幸町では、地域新エネルギービジョンを策定し、地域の特性を活かした新エネルギーの導入を目指しています。

特に、豊富町では、天然ガスのコージェネレーションシステムを導入し、鉱山施設の電力を賄うとともに、排熱を有効活用する取組みが実施されています。

管内風力発電施設位置図



(50kW以下の小規模発電施設は除く)

図の番号	設置場所	事業主体	規模	用途	完成
①	稚内市 (ミルロード'付近)	㈱稚内ウィンドパワー (稚内風力発電所)	800kW (400kW×2基)	売電	H10年2月
②	稚内市 (稚内公園内)	稚内市 (稚内公園風力発電所)	225kW (225kW×1基)	施設供給 余剰分売電	H10年10月
③	稚内市 (ミルロード'付近)	稚内市 (稚内市水道部風力発電所)	1,980kW (660kW×3基)	萩ヶ丘浄水場 施設供給	H12年12月
④	猿払村 (浜猿払地区)	井の三風力発電㈱ (井の三猿払風力発電所)	1,500kW (750kW×2基)	売電	H12年12月
⑤	稚内市 (ミルロード'付近)	㈱稚内ウィンドパワー (稚内風力発電所)	1,500kW (750kW×2基)	売電	H13年6月
⑥	浜頓別町 (頓別原野)	㈱北海道市民風力発電 (市民風力発電所「はまかぜちゃん」)	990kW (990kW×1基)	売電	H13年9月
⑦	浜頓別町 (頓別原野)	㈱ユースエナジー浜頓別ほか (浜頓別ウィンドファーム)	2,970kW(990kW×3基) 1,000kW(1,000kW×1基)	売電	H13年9月 H17年9月
⑧	稚内市 (サラキトマイ地区牧野)	さらきとまない風力㈱ (さらきとまないウィンドファーム)	14,850kW (1,650kW×9基)	売電	H13年10月
⑨	利尻町 (町運動公園付近)	北海道電力㈱ (利尻カミイ発電所)	250kW (250kW×1基)	離島での 技術検証	H13年11月
⑩	稚内市 (宗谷村宗谷岬)	㈱ユースエナジー宗谷 (宗谷岬ウィンドファーム)	57,000kW (1,000kW×57基)	売電	H17年11月
⑪	幌延町 (幌延町字浜里)	幌延風力発電㈱ (オトンレイ風力発電所)	21,000kW (750kW×28基)	売電	H15年2月
⑫	幌延町 (幌延町字幌延)	北海道電力㈱ (サロベツ発電所)	250kW(250kW×1基) 230kW(230kW×1基)	実証試験	H11年12月
⑬	稚内市 (増幌地区)	㈱天北エナジー (天北ウィンドファーム)	30,000kW (3,000kW×10基)	売電	現在建設中

※宗谷総合振興局管内の稼働中の発電施設 風車の合計112基 発電規模の合計104,545kW

稚内市における太陽光発電について

平成18年に、NEDOの実証研究として稚内市声間に建設された大規模太陽光発電システムが、5年間の研究期間を終え、平成23年3月に稚内市に譲渡されました。発電した電力の一部は、道及び稚内市の公共施設で利用しています。



「提供 北海道電力株式会社総合研究所太陽光発電プロジェクト推進室」